



## *Bienvenue au Miki!*

21日（土）、フランス・クロミエ総合高校から18名の高校生と3名の引率の先生が来られました。23日（月）朝には体育館で歓迎会が行われ、吹奏楽部の演奏で迎えました（ラファエル先生の英語挨拶はClassiで紹介したとおりです。）。

授業や部活動への参加、お茶席体験、市長表敬訪問、三木みどりロータリークラブさんのご協力を得ての市内企業訪問、姫路城観光等々、お互い満喫の1週間だったのでないでしょうか？ たくさん感想、写真などいただいています。取り急ぎ、三木での1週間の様子を写真で報告します！

来月は本校生20名がクロミエを訪ねる予定です！ 再会が楽しみです♪



## 米国留学日記

報告が大変遅くなってしまったのですが、去年の秋から今年の夏まで1年間、現3年生1組（国際総合科）の樽井優奈さんが、アメリカ・ノースカロライナ州に留学をしていました。このたび、手記を寄せてくれましたので、紹介をします！

樽井 優奈

アメリカのノースカロライナ州シャーロット市にあるサウスメクレンバーグ高校に1年間通いました。私はそこで日本語、英語二種類、数学、アースサイエンス、アメリカンヒストリー、マーケティング、アカウンティングの授業を受けました。

アメリカで特に仲良くなったのは英語クラスの子たちでした。私の行っていた学校はとてもグローバルなところで、英語が第一言語ではない色々な人種の人々が通っていました。私の受けていた英語クラスは英語が第一言語ではない人向けのクラスで、ブラジルやチュニジア、ベネズエラなど様々な国の人たちがいました。そこでお互いの国の文字で自分たちの名前を書きあったり、自分の国のおすすめスポットを紹介しあったりしました。

日本語クラスでは日本の文化紹介を頼まれたので、日本から持参していた鰹節削り器で鰹節の削り方を教えました。初めて鰹節を食べた現地の高校生にはスモークサーモンみたいな味がすると言われました。

1年間のアメリカへの留学を経て一番大切だと思ったのは自分から声をかけることです。アメリカの人は困っていてもなににも言わなければ自分でやるとして助けてくれないことが多いですが、助けて欲しいと頼めば力になってくれます。これからアメリカへ留学に行く人は、英語が苦手でも伝えようとすれば相手も分かろうとしてくれるので、困ったら恥ずかしがらずに手伝ってもらえるように頼みましょう。

写真は英語のクラスで自分たちの国の料理を一品ずつ持ち寄ってパーティをした時のものです。



\*\*\* \*\*

「増税クソ眼鏡」とSNS上で呼ばれている人がいます。

岸田首相のことですが、今のご時世、眼鏡をかけている人を「眼鏡」と呼ぶだけでアウトでしょう。さらに「クソ」まで付けている。「国民生活を圧迫する首相への怒りの表れだ！」と正当化する人がいますが、腹が立ったら相手の容姿を取り上げてののしる？「相手は首相だから！」首相には人権がない？「弱い立ち場の声だから！」言い返せない立場の人(=弱い立場の人)に暴言を吐くのはOK？そもそも、政策と眼鏡にどんな関係が？

政治や世相に対しては「風刺」という上質な文化があります。かつて、目標達成のためなら変節を厭わなかった故中曽根元首相は「風見鶏」、大衆を味方に付ける小泉元首相の政治手法は「小泉劇場」と呼ばれましたが、言い得て妙で、言葉として耳触りもOでした。

最近、SNS上に飛び交う政治家をはじめ有名人へのののしりが、もはや人権問題レベル。言った人やその取り巻きは上から目線でご満悦でしょうが、言われた人は傷つき、聞かされた多くの方は不快です。しかし、世間は「ネットいじめ」には敏感なのに、ネット上の「~たたき」(=ほぼいじめ)は、被害者が動かない限り放置です。そして、状況は段々エスカレートしています(「増税クソ眼鏡」など)。こんなことも探究してみませんか？

〔国際・探究推進部長 田尻 淳〕